

〔四〕 生徒会活動の指導と問題点

—— 生徒の無気力・無関心の実態とその対策 ——

都 築 亨 原 田 秀 雄 北 田 明 子
米 山 誠 三 谷 み ち へ 小 幡 正 躬

問題の所在

生徒とくに高校生の無気力、無関心が現在一般的現象となってきている。われわれが生徒会の指導を担当して一番大きく感じたのはその問題である。大衆社会状況に起因するのか、あるいは受験体制——受験中心にかたまりそうな現在の生徒たちの小学校から中学校・高校を通じて培われてきた学習態度がそうさせるのか。とにかくその現実を否定しがたいし、本校においてもその例外ではない。

一昨年来、全国の高校を通じてみられた少数の過激派高校生の動きは、ある意味ではそうした現実に対する反ばつとしてとらえるべきであろう。

その紛争自体、生徒指導、とくに生徒会を中心に指導にあたっている者にとって大きな問題にはちがいないかったけれど、紛争らしいものが落ちつきをみせたとき、校内の無気力・無関心、あるいは退廃的ムードは一層つよくなってきたのではないかと考えられる。

現在の生徒会の指導の力点は、生徒の要求をそらしたり、弾圧したりすることではなくて、全般的ムードとなっている無気力さ、無関心状況をいかにして打破し、生徒の自治活動をその本来の意味において組織し直してゆくことである。そしてその基盤はクラブ活動と、ホームルール、あるいはホームルーム活動と生徒会（執行部・諸会）との接点にあるのではないだろうか。

I クラブを通じた生徒指導

原 田 秀 雄 北 田 明 子

はじめに

最近本校では生徒会活動、HR活動、クラブ活動等生徒の自主活動が不活潑で沈滞しているようにみえる。その原因としては生徒個人個人のそうした自主活動に対する無気力、無関心さが考えられ、問題にされなくてはならないであろう。その無気力、無関心の実態をさぐり、原因を追求し、対策をたてるのが当面の課題となっている。ここではそれをクラブ活動の面からとらえ、その問題点の分析と対策について考え、生徒指導の一つの手がかりとしたい。

本校では昭和38年より校風改善の一環として、クラブ活動を振興して、無気力さから脱却し、力強いムードを作りあげようと生徒会、教官会議の両者でクラブ全入制をとりあげた。その方法は次のようである。

1. 生徒全員が原則として何れかのクラブに加入すること
活動はそれぞれのクラブの定める週2日以上（活動日）に出席することとし、高3だけは自由参加とする。
2. クラブは2期制とする
生徒会の役員交代と併せ、クラブの所属の変更、クラブ役員の交代を行なう。
3. クラブ活動の評価と対外活動への参加の禁止
クラブ顧問はクラブへの出席率、技能や態度についての総合評価を行ない、3段階評価法により、1学期と3学期末の成績通知表により生徒及保護者へ通知する。また学習成績評価が10段階評価で1、2という低い評価点が4個以上あるものについては対外的な活動への参加を禁止することとし